令　和　６　年　第　７　回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

Ⅰ　開会及び閉会の日時

令和６年６月 28 日（金）

開会午後１時 00 分、閉会午後２時 15 分

Ⅱ　場所

県庁４階大会議室

Ⅲ　出席委員

１番	坪池　宏	２番	黒田　卓	３番	大西　ゆかり
４番	村上　美也子	５番	牧田　和樹	教育長	廣島　伸一

Ⅳ　説明出席者

理事・教育次長	水落　仁
教育次長・教育みらい室長	中﨑　健志
教育次長	小杉　健
参事・教育企画課長	板倉　由美子
教育参事・教育みらい室小中学校課長	山尾　佳充
教育みらい室県立高校課長	土肥　恵一
教育みらい室特別支援教育課長	魚津　直美
教育みらい室県立高校改革推進課長	丸田　祐一
生涯学習・文化財室長	辻　ゆかり
教職員課長	安川　賢一
保健体育課長	五島　直樹
教育企画課課長（高校跡地活用・学校施設担当）	中家　立雄
教育企画課課長（ICT 教育推進担当）	小林　匠
教育みらい室課長（県立高校改革推進担当）	嶋谷　克司
教育みらい室課長（児童生徒支援担当）	富川　展行
生涯学習・文化財室次長・課長（振興担当）	前川　秋人
生涯学習・文化財室課長（家庭成人教育担当兼青少年教育担当）	河原　千里
保健体育課課長（食育安全担当）	松嶋　保子

Ⅴ　傍聴人数　　３人

Ⅵ　会議の要旨

午後１時 00 分、教育長が開会を宣する。

１　会議録の承認について

令和６年５月 23 日開催の令和６年第６回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

２　協議事項

(1) 令和７年度学級編制方針について

① 教育みらい室県立高校改革推進課長から説明した。

② 陳情書により陳情者から陳述がなされた。

陳情（県立高校の募集生徒数・学級編制に関する陳情）

③原案のとおり可決した。

３　報告事項

⑴　臨時代理について（令和６年６月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件）

教育企画課長から説明した。

⑵　第１回地域の教育を考えるワークショップの開催結果について

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明した。

⑶　令和７年度富山県公立学校教員採用選考検査志願状況について

教職員課長から説明した。

４　今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

５　議決事項

午後１時 57 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第７項ただし書の規定に基づき、議案第 15 号および報告事項１件については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 15 号　富山県いじめ防止対策推進委員会委員任命の件

教育みらい室課長（児童生徒支援担当）から説明し、原案のとおり可決した。

６　報告事項

⑷　臨時代理について（令和７年度使用義務教育諸学校用教科用図書採択の件）

教育みらい室小中学校課長から説明した。

なお、非公開で審議した議案第 15 号および報告事項１件については、適切な時期に公表することを決定した。

７　議事

〇協議事項⑴関係

〔教育長〕

・本協議事項については関連する陳情が１件提出されている。あわせて意見陳述の申し出があるが、富山県教育委員会陳情取扱要綱第３条に基づきこれを認め、陳情者から事情を述べていただきたいと考えている。なお時間は陳情１件につき５分までとしたい。事務局がベルで案内するので、よろしくお願いしたい。では陳情について、富山県高等学校教職員組合からお願いする。なおベルは４分 30 秒で１回、５分でベル２回となるのでお願いする。

〔高等学校教職員組合　中山氏〕

・それでは県立高校募集生徒数と学級編制に関して、富山県高等学校教職員組合から意見を申し述べさせていただく。お手元の県立高校の募集生徒数・学級編制に関する陳情というＡ３二つ折りの物、別紙資料としてホチキス留めの物をご覧いただきたい。まず最初に、皆さんにおかれては、富山県の教育の発展にご尽力いただいていることに敬意を表したい。

・１段目に書いてあるが、私たちは来年度の募集生徒数に関しては６月の県議会に陳情を提出させていただいた。それから県教育委員会教育長宛に「県立高校の募集生徒数に関する申し入れ」というものを６月 25 日に提出させていただいている。さらに、今日教育委員会で時間を取っていただいて意見を申し述べさせていただくという事については、教育警務委員会で教育長から答弁があったということを受けてということになる。

・提出した陳情書の２つにわたるが、項目１の最後、下線を引いてあるところがある。「また、新川学区については生徒数の増加に応じて学級増で対応し、学区の募集率を引き下げないこと。」25 日に教育長宛に出させて

いただいた申し入れにそこの部分を加えたという趣旨だ。

・前文のところに戻って欲しい。今ほどの提案、方針についてということで、事前に教育委員会で協議されるという事は初めてかなと思っている。午前中も富山学区のワークショップが開かれていたが、県立高校の将来像に向けて今具体的に検討されているところで、来年度の募集生徒数を考えていかなくてはならないということになると思う。今ほど提案のあった募集定員を極力減らさずに、やむを得ない減少分は学級減ではなくて学級定員の減での対応という検討はぜひ進めていただきたいと思っている。ただもう１つの点で、今の提案内容でいくと参考資料２（2）だ。一時的に増えるところがあっても中長期で見ると減るのだからそこは増やさないというこの考え方については今現在将来のあり方が検討されている途上、着地点がまだ定まっていないということ、それから公私の募集比率は検討が必要だと言われているが、この後どうなるかについては結論・合意に至っていないという状況を鑑みて、本文下から２行目、教育の機会均等という観点から見て、募集生徒増のところは学区ごとに生徒増、募集増で対応していただきたいというのが趣旨となる。今年度増えるけれど、来年度は帳尻が合うから減らさないというのは、今の中学校３年生は来年はもう中学校３年生ではない。その考え方からいくと、今年あなたの分の椅子がちょっと減った分は来年までもたない、そういうことになってしまうことになる。そこは今いる中学３年生の立場に立った議論でこの後基本的な方針を定めていただきたいというのが趣旨だ。

〔教育長〕

・只今の陳述の内容につきまして、委員の皆様から何かご質問等あればお願いしたい。

・それでは今の事務局からの説明、陳情もあったわけだが、この令和７年度学級編制方針について皆様からご意見を頂戴したいと思う。はじめに私から補足説明させていただくと、これまでは編制方針については協議というような形はとっていなかった。ただ先ほどの事務局からの説明にあったとおり、今後県全体では長期的な募集定員の減少が避けられないという事実があり、自主的に増減を行うと翌年はさらに大きく減少するところもある。加えて近年県立高校は若干欠員という状態も出てきている事実もある。当然教育の機会についてはしっかり確保するという観点でも検証はそれなりに必要かと思うが、中学校卒業予定者数が一時的に増えても募集定員は今ほどの考えに基づいて増やさないという新たな考え方についても必要ではないかと考え、まずは方針を協議いただきたいということで今日お諮りするものだ。

〔牧田委員〕

・意見ということで、協議に入る前に教えていただきたい事が２点ある。１点目は、今４学区でそれぞれ区分けされているが、この学区の分け方は、そもそもどういう経緯で分かれたのか。もちろん私も子どもの頃から学区が４つというのは違和感なく受け入れてきたが、そこに何か大きな意味があるのか。この後いろんな話をする時に必ず学区がネックになるだろうから、そこに何か特別な意味や意義があればぜひ教えていただきたい。

・もう１点目は、今の教育長の説明からいくと、先ほど県立高校改革推進課長からも説明があったが、基本的には昨年と同じようなやり方をしようという雰囲気だと私は感じたのだが、昨年は学級数を減らさずに定員を減らす方向でやった。まだ１年経っていないが、それをやったことによってメリット・デメリットがもし生じていれば、それを是非教えていただきたい。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

・学区の考え方についてのご質問だが、富山県は４学区で考えていくという事が随分以前から行われており、それが浸透しているところがある。明確な何かに基づいてというよりもこれまでの慣例であるかと思う。また、通学できるような範囲の学校という考え方から、この４つの学区が生まれてきているのではないかと思うが、普通科においても本年４月からどこの学区でも通えるようになったということで、学区の考え方は若干変わりつつあるのではないかと思う。ワークショップなどでも学区の中で考えるのはなかなか難しいのではないかという声もいただいている。

・２つ目の昨年の定員減が良かったのかというところだが、今まさに県立高校の今後のあり方を議論しているところだ。昨年度こういった対応をしたということもあり、本年も同様の対応をするのがいいのかどうかを今検討しているところで、昨年のメリット・デメリットまで整理できている状況ではない。

〔牧田委員〕

・昨年とりあえずやったので、今年もそうしようという感じか。
〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕
・そういう方向も含めて検討してはどうかと思っている。
〔牧田委員〕
・わかった。
〔村上委員〕
・今、全体的な流れとしては著しく子どもの数が減っていくことが見て取れるわけだが、一時的に増加に転じる学区もある。このような場合昔はクラスを増やしたといった事もあったと思う。しかし現在はクラスを減らすことが難しい状況であり、少し増えたから増やす、少し下がったからまた減らすということは難しいと思う。また、この地域において、ここ数年はどのような地域の子ども達が進学先を選んだのかということを知りたい。
〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕
・今ほどの進学先がどのようになっているかということについては、学区の中の学校に通っている子どもとそれ以外の学区に通っている生徒の状況を直近のものと 10 年ほど前のものと比較してみた場合に、同じ学区の中の学校に通っている生徒の割合は 10 年前と比べても、かなり減ってきている。５ポイントほど減ってきているという状況が見てとれる。こうしたことから学区間の流動性がかなり高まっているのではないかという事が見て取れると思う。また先ほど教育長からもあったが、近年欠員が増えてきているという状況がある。これについては県立高校ではなく私立高校を選択する生徒も増えてきていることや、県外に本拠をもつ通信制の高校も含めて、本県の県立の全日制以外の選択肢が広がってきていることも把握している。そうした傾向、学区の流動性が高まっているということも１つあると捉えている。
〔坪池委員〕
・学級編制については中学生の学びの確保というのが大事な視点だと思う。生徒数の動向については短期も長期も含めて、この後考えていく必要があると考えている。それから志願状況等についても過去とこれからどうなっていくのか、ある程度の未来の予想を総合的に判断していく必要があると思っている。そういう意味では２ページにある全県、それから学区ごとの推移を示しているのは大変いい資料だと思うので、こういうものを参考にして今後検討していただきたいが、あくまで中学生の学びの確保をするということを忘れないでやっていただきたい。
・学校を経営している者の立場からいくと９クラスとか 10 クラスあった時に１クラス増えたり減ったりするのはそれほど学校に影響はなかったが、現状のように小さくなってきた中で１クラス増えたり減ったりするのは、これはいろんな面で大変難しいし、場合によっては教育課程を見直さなくてはならない場面も出てくるかもしれない。そういう意味では、年による増減というよりも長期的な視点で見ていくのが比較的良いのではないかと思う。もちろん短期のものを無視するという意味ではないが、これまでより長期的な視点をしっかりと見ていく必要があるのではないかと思う。
・それから、今いくつか説明があったが、通学区域が普通科全県一区になった。ご指摘の通り流動性を高めていく実態にあわせていったもの、中学生の進路指導に則したものだった。いわば子どもファーストの視点で考えられているものだと考えている。こういったことになると地域の増減もあるが、県下全体の中学生の増減もしっかり把握していく必要があるのではないか。いずれにしても地域と県全体のバランス、それから中学生の学びの確保、このあたりをバランスよく考えて検討していただきたいと思う。
〔牧田委員〕
・今の坪池委員の話で思ったのだが、さっき言ったようにクラス減と定員減という２つの方法があるが、クラス減と定員減をやることで学校側の負担や行政側のコストはどれ位違うものなのか。
〔教育長〕
・去年の、学級減ではなくて定員減でやった時の試算になると思うが、教員を規定より多く配置することになるので、財政的には５千万円位の負担となる。
〔牧田委員〕
・１年間に５千万円か。

〔教育長〕
・はい。そういう要素がある。
〔牧田委員〕
・県全体の予算枠で教育に使うお金は決まっているというか、ほぼ振り分けていると思うが、それは教育に振り分けられた中から出したのか、それとも新たな財源をどこかから持ってきて、それを付け加えたのか。
〔教育長〕
・県全体の予算ということになると、その部分が減っていたか、他の部分に使っていたかということだ。
〔牧田委員〕
・昨日の新聞にタブレットを１人７万５千円だったか、これからは学校で与えずに親に買ってもらうという話があった。そんなことを考えると、どこにどういう風に予算を使っていくのがいいのかをこれから考えないといけないと思った。
〔大西委員〕
・去年は定員減で対応され、その中には普通科もあったということで、去年の教育委員会で検討した時に申し上げたのだが、一時的に 35 人のクラスになるという事で、少人数でクラス運営することが子ども達の教育に対して良い面が期待できるのではないか、ぜひ検証していただきたいと申し上げた記憶がある。先ほど牧田委員がメリット・デメリットを検証できているのかと仰ったが、私の方からも重ねて、そのことについて確認していただきたいと思う。少し先生方に余白ができる、余裕ができる事自体は良い面だと思う。ただ去年の受検の様子を見ていると、定員減で対応された学校は募集に満たなかったのではないかと思うので、少しその辺りは勘案しなくてはいけないと思う。デメリットがあるのかないのか、今おっしゃられた財源を県独自で出さなくてはいけないことは大きなデメリットになるのではないかと思うが、それをもってしても子ども達の教育に良い面が期待できるのであれば、県の方でそういう予算を組んでも良いのではないかと思う。
・年度によって一時的に中学校卒業予定者数が増える学区については、これまでもそういうような子ども達の全体的な人数の増減について１クラス増やしたり、次の年は減ったから減らしたりがあったとお聞きしたが、この後大きな再編が控えている中で、増やしたり減らしたりというのは子ども達や保護者の気持ちを考えると将来どうなるのかという不安がさらに大きくなると思うので、募集定員を増やさないことを検討するとあるが、慎重に検討したいことだと感じた。
〔黒田委員〕
・基本的な本年度の考え方としては計画としてこれで良いのではないかと思う。今もいろんな意見が出てきたが、ある程度高校のサイズ的には限界が来ている。先ほど教育課程の見直しの話も坪池委員からあったが、現状でも高校で本来開いていないといけないような科目も開けていないところもある。そういう意味では、子どもファーストでという話があったが、学びたいものが学べないという事が現状としてある。私としては今年度はこれで良いと思うが、長期的なところでは相当数減っていくのは目に見えているので、そういった内容的な部分を考える必要があるのではないか。普通科だからどこも一緒ということではなく、その中でもこういうところが充実している高校だとか、こっちの高校はちょっと違うところを打ち出していくという形も考えていかないと、生徒の学びに合わせていく、子どもファーストで、というのは難しいのではないか。
〔教育長〕
・今、黒田委員が言われた学校の魅力化の観点は、まさしく今回のワークショップでも１つのテーマとしてやってきている。今回の県議会でもいろいろな議論があったが、ワークショップの中でも高校の魅力を高めていくその中の１つのツールとして高校再編があるのではないかという意見もあった。そういう観点からすると、魅力化はできるものはすぐにやっていくことも必要ではなのかと思いながら、今やっている状況だ。
〔黒田委員〕
・魅力化については、申し上げたようにその高校でということだが、同質というか同じような考えの子ども達が小規模に集まってという形は総合的な視点から見るとちょっと弱いという気がするので、魅力化に走るということではなく、各校との関係性とかを見ながら多様な考え方をもった生徒たちが交流できるような形を考えていかなくてはならないと思う。
〔教育長〕

・事務局の検討の方向性という事で案を出させていただいた。今いろいろなご意見をいただいたことを踏まえて、この案をベースに今後速やかに具体案を作っていきたいと思っている。

〔牧田委員〕

・確認だがタイトルが「令和７年度学級編制方針案」とあるが、読み方によっては令和７年度限りと読めるわけだ。

〔教育長〕

・今後どうするか、来年は来年でいろんな考えがあると思うし、ここは１つの基本の流れになると考えている。

〔牧田委員〕

・それはここに書いてある基本的な考え方とずれているのではないか。学級定員を 40 人を標準とすることと一番上に書いてあるのに、定員減となるとそれは堅持できなくなるのではないか。

〔教育長〕

・検討の１項目にするという方針であると理解していただければと思う。

〇報告事項(3)関係

〔牧田委員〕

・志願倍率の話だが、まず１つは昨年度ここで特定の大学から受け入れるというのをやったが、あの結果は表でいうと大学推薦に出ていると思うが、昨年と比べて減っている。あの時にもっと大学を増やしたらどうかという話をしたと思う。既に時期を逸しているというか、そういう事が読み取れそうなので、早急にまずできることからやるという姿勢が大事だと思う。それは是非お願いしたい。

・もう１つはなぜ先生になろうとしないのかということの原因、ファクトをちゃんとつかむということを優先してほしい。たとえば富山大学や金沢大学に協力いただいて、教育学部の学生の皆さんに先生になりたいか、なりたくないか、なりたくないのならなぜか、と聞いてみる。教育学部に進んでいて、教職課程もセットされているわけだ。今の学生の現実の姿、ファクトを知らないと手は打てない。最近は他の都道府県では早めに試験したりという、いわゆる青田買い戦略のようなことをやっているところもある。でもそれが果たして有効かどうかは検証されていない。そのことも含めて一番有効なのは、なぜ先生になろうとしないのかを早急に把握することだと思う。そこは是非進めていただかないと、富山県の教育はこのままでは崩壊していくのではないかと思う。子ども達を学校で教育するのが先生なのだから、先生がいなければ子ども達は教育できない、教育されないことにつながる。いずれにしても由々しき問題だと思うので、まずはファクトをつかんでほしい。

〔大西委員〕

・倍率が 2.0 倍で過去最低ということだが、どの業界も人材不足は人材不足なので、この倍率について大きく取り上げて、クローズアップすることばかりでなくてもいいのかなという印象を持っている。良い先生に子どもを見てもらいたいというのがすべての保護者の希望だが、良い先生というのは全人的な人間力が高い教員だと思う。それは採用試験で決まるのではなくて、その後の教員を育成するカリキュラムや仕組みに大きく依っているように思う。そちらの方をしっかり充実してもらうことによって、先生が働きやすく働きがいのある仕事であるということ、ブラックではないという事が普及すれば、先生を志願する学生も増えてくるのではないかと思う。

・人材の確保、志願者倍率、志願者総数を増やすことについては牧田委員も言われたが、大学推薦を確実に多くするように、人数の枠自体も対象の大学自体も増やせば安全な確保ができるのではないかという印象を持った。

・もう１つ、各学区によって開催されているワークショップで感じたことだが、先ほど県立高校の募集生徒数、学級編制についての皆さんの意見をお聞きした時に、学区をもう少し緩く、全県の単位で考えた方がいいのではないかという意見があった。各学区で参加された方々もそのような意見をお持ちの方も多いと思う。ただグループワークのテーマが、それぞれの学区のめざす姿についてということで、学区で目指す姿を論じるというテーマがすでに軽くバイアスがかかっているような気がする。だから砺波学区の方では高岡学区と一緒に考えた方がいいのではないかという意見が出てきたりしているのではないかと感じた。この後もワーク

ショップが重ねられていくが、各学区で参加されている方々に全県としてはどんなふうに感じているのかを聞いたらいいのではないかと感じた。

〔黒田委員〕

・(3) の種目別志願者数のところを見てみると、小学校のところは大学３年次を除いた数字が、令和６年と比べると６人減だ。他のところはわからないが、総数の減少数と考えるとかなり大きく減ったのは中・高だ。中学校は教育学部を出ている学生が多いと思うが、高校は多分一般学部からだと思う。世の中的にいま就職が若干上向きというか、以前に比べると良くなっているところからかなり来ているのかなと感じた。私も富山大学で教育学部の学生にはよく会うし授業もあるが、一般学部の学生の授業も持っているが、なかなか先生になれよというところまでは難しいところがある。また教育学部の学生には教育委員会から来てもらって富山の教育について語ってもらう時間があるが、一般学部の学生には、機会を設けてはいるがなかなか伝わっていない面があるのではないかと感じている。いろいろ改善方法はあると思うので、大学の方も協力できると思う。

・もう１つは社会人のところだ。３年後の離職率が高いというのが話題になっているが、離職した後どこに行くかという部分で教員を考えてもらうというのが必要になってくるのではないかと思う。社会人は昨年に比べると減っている。もう少し可能性があると思うので、いろいろ手を尽くしていく必要があると思う。

午後２時 15 分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。